

講義名	キャリア社会学			授業形態	
担当教員	桑原 桃音	開講期・曜日・時限	前期 木曜日 2時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

本講義では、まず、働き方の変化、多様な働き方について概観する。
つぎに、働くことをめぐる個人と社会のかかわりはどのようなものかを社会学の視点で読み解く。
さらに、ライフコースの概念から職業キャリア以外のキャリアとは何かを理解したのち、就職活動、就職後の生活、引退後の生活をふまえながら、キャリアデザインについて学ぶ。同時に若者のキャリア意識に関する参考文献をヒントにキャリア探索と自己効力の関連性について学ぶ。
さいごに、働くことにかかわる変化とその課題について理解しながら、多様な労働者の働きやすさのために、あるいは多様な生活者の生きやすさのために求められる社会のあり方とは何かを検討し、考察する。

到達目標

- (1)「働くこと」をめぐる個人と社会のかかわり、およびその変化と課題について社会学の視点を用いて理解し、説明することができる。
- (2)人びとのキャリア意識について知り、将来の自分のライフコースを想定し、キャリア自己効力とキャリアデザインについて理解したうえで大学生活の過ごし方を考え、計画することができる。
- (3)性別、国籍、障害や病気の有無、家族ケアラーであるかどうかによって、キャリア形成のうえで抱えやすい問題や、置かれている現状について知る。
- (4)上記の知識と能力を用いて、どのような境遇におかれても誰もがワーク・ライフ・バランスを保持しながら働ける社会の意義を理解し、現代日本社会におけるキャリアにかかわる問題を検討し、働きやすさと生きやすさのために何が必要かを考察し、提案をすることができる。

提出課題

- ・毎回授業時に作成したワークシート、クリッカー（Respon等）による課題を提出してもらう。
- ・毎回の課題は300字程度の字数を要する。
- ・クリッカーは授業内で情報共有するので個人情報や露呈しない内容にとどめること。
- ・グループディスカッションを行うこともあるが、内容によってはICT等を活用した双方向ディスカッションなどを課す。たとえば、他の受講生のクリッカー内容を共有し、それらの内容について議論につなげるなど
- ・不定期に特別課題、小テストを課す。また学びを深め、評価を上げたい学生のために発展課題を課す。
- ・授業中半で、中間レポートを課す（授業の進度や受講生の様子を見て中間テストに切り替える場合もある）。中間レポートの未提出によって点数が下がり、単位が認定されない場合があるので注意すること（1500字～2000字を予定）。
- ・最終レポートの内容については講義時に詳細を説明する。ポータルの説明内容だけでは書けないので注意すること（3000～4000字を予定）。また、最終レポートを提出しない場合は授業を「放棄」したとみなし、単位を認定しない。教員からの指示がない限り、締め切り以降の提出はいついそ認められないので注意すること。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

毎回の授業課題の講評、質問については、次回もしくは次々回の授業時に学生へ伝える。
授業課題の講評内容を参考として最終レポートに活かしてもらう。

評価の基準

- ・平常点55%（講義内の課題、不定期に実施する小テスト55%）
 - ・レポート45%（中間レポートor中間テスト15%、最終レポート30%）
- 20分以上の遅刻は欠席扱い。
居眠り、私語、指示のないスマートフォン等の電子機器の利用はいずれも欠席扱い。
欠席が5回以上になったら単位不認定とする。同様に毎回の課題の未提出が5回以上になったら場合も単位不認定となる。
次の行為は判明した時点で単位不認定。
課題やレポート内容にインターネットからの盗作・剽窃があった場合。
他学生の課題、クリッカー、レポートをコピーして提出した場合（この場合はコピーしたものを/させたものどちらも不認定）。
・ともに部分的な盗作、剽窃、他学生の課題内容のコピー&ペーストでも単位不認定。

履修にあたっての注意・助言他

- ・毎回の課題に頑張って取り組むこと。
- ・課題の提出、クリッカーの入力を積極的に行うことが評価につながる。課題の未提出が評価にひびくので注意すること。
- ・文字数が少ない、授業内容をまったく理解できていない、あきらかに指示した資料を確認していない、いい加減な課題は0点
- ・何らかの理由で提出できない場合は、信ぴょう性書類を用意して必ず締め切り前に教員に連絡すること。連絡がない場合は受け取らない。
- ・教室内で他の学生が学習する機会、権利を侵害する行為（私語・携帯電話やスマホの使用・授業途中の入退席など）をする者はその日は欠席扱いとし、退席を指示することができる。
- ・各課題、各レポートで盗作・剽窃したものは、それまでの課題点がどれだけよくても、発覚した時点で単位不認定とする。

教科書

・使用しない。					
---------	--	--	--	--	--

参考図書

・キャリアのみかた ・・因でみる110のポイント 改訂版。	阿部 正浩・松繁 寿和	有斐閣	2090	9784641164383
・「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学。	小川 慎一ほか	有斐閣	2530	9784641220430
・自分と社会からキャリアを考える：現代青年のキャリア形成と支援。	安達 智子	晃洋書房	2860	9784771032262

その他

- ・講義時に資料とレジュメを配布する。Ryuka Portalを介して配布することもある。
- ・参考文献は適宜指示する。インターネット上のサイトなども利用する。

授業計画

1. オリエンテーション
2. キャリアデザイン：自分にあった職業とは何か
3. 働くことのしくみ(1) 雇用システムと賃金格差
4. 働くことのしくみ(2) 職場の人間関係と法
5. 働くってどういうこと？：音響制、組織
6. 就活の現状と若者のキャリア意識
7. 働くこととダイバーシティ
8. 中間レポート（もしくは中間テスト）、前半のフィードバック
9. ダイバーシティ求められる多様性(1) 障害者雇用問題
10. ダイバーシティ求められる多様性(2) キャリアとジェンダー、ワーク・ライフ・バランス
11. ダイバーシティ求められる多様性(3) キャリアとLGBT+
12. 最終レポートの説明&これまでの振り返り・フィードバック
13. ダイバーシティ求められる多様性(4) グローバル化と「働くこと」
14. 働き方の変化、多様なキャリア
15. まとめ&後半のフィードバック

感染者、または濃厚接触者に指定され、一時的に通学が禁止される学生への対応については「備考欄」を確

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A～L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：指定された参考文獻、雑誌、新聞記事などの資料に目を通す（各約30分）
次回授業の参考文獻として指定された資料の配布があった場合は授業までに目を通す。
毎回ではないが、授業内で指定された資料を収集したり、その資料について要約したりしておくことを予習として課す場合もある（資料はweb上で手に入れられるものにする）。

復習：授業時に配布した資料、授業録講時にとったノートを見直すこと。さらに、授業で理解した知識を踏まえて、その内容について考察したことを文章化してノートに200字程度書くこと（各30～1時間程度）。不定期であるが宿題が課されたら、その作業をすること（30分～1時間程度）。

中間レポート、最終レポートはともに作成のための資料収集、レポート作成作業に5時間以上は要するので、そのつもりでとりかか

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この科目は、産業社会、労働社会、「働くこと」を軸として、社会学的に現実社会のさまざまなテーマに取り組みながら、社会構造、社会制度、「働くこと」、ライフプランにかかわる知識と、その社会的な意義や役割を理解することを目標としている。

さらに、多様な人々が共にキャリアを通して自己実現していく、ワーク・ライフ・バランスの実現・継続ができる社会を実現する意義を理解し、さまざまな境遇に置かれた人々の問題状況を把握し、問題改善するために何が必要かを考察し、提案できる能力を培うことができ、自分自身がよりよい社会実現のために、どのように貢献することができるかを考察することができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

提出された課題やクリッカーの内容について授業内で講評や解説を行う。
クリッカーを用いて授業内で意見を提示してもらい、それらについては次回以降にコメントや解説をする。
受講生の知見や考えを深めるために動画やインターネットを用いる。
Teamsを用いて課題、連絡の提示、学生間のディスカッションをすることができる。

実務経験の有無及び活用

備考

- やむを得ない欠席の場合の対応について
 - 1) やむを得なく欠席した授業実施後2週間以内に連絡すること。事前にわかっているのは事前連絡が望ましい。
 - 2) 対応方法、提出が必要な課題や書類、課題締め切りを教員から指示する。
 - 3) 連絡後でも應じないで教務部指定の公文書と信ぴょう性書類も提出すること。
 - 4) 指定された締め切りまでに課題を提出すること。
- 病欠で追加課題が提出できるのは、診断書等の信ぴょう性書類の提出ができる場合のみです。